

ご自由にお持ち帰り下さい



医療情報の情報電子化について…1

- 新グループホームわかまつの紹介 ……………2
- 北中城若松病院 亜急性期リハビリ課の取り組み ……………3
- こころのサプリメント…つながる思いとつなげる言葉 ……………4
- Medical Healthy Recipe…秋の味覚「さつまいも」……………4
- あなたにとっての「膝下のお魚」は、何ですか?……………5
- 足踏み式アルコール噴霧器を北中城村社協に寄贈しました! ……6
- 地域医療包括ケアセンター 理念 ……………6



医療情報の情報電子化について

地域医療包括支援センター長 涌波 満

私たちの診療所にも情報電子化の波が押し寄せています。ファミリークリニックきたなかぐすくは2000年の開業以来、紙カルテを使用してきました。血液検査結果、レントゲン写真は、保存や検索の便利さから、数年前に電子化し、診療報酬請求の情報も電子媒体を介して支払機関に提出していますが、他の医療、介護機関との情報のやり取りは、コンピューターに入力するものの、一旦は印刷して、FAXや郵便で送るなど、まだまだ、アナログの状態です（これは、情報を電子化するための機器の互換性がまだ不十分であることや、私たちがその扱いに不慣れであることが原因と考えられます）。そして、カルテを書く手間、書かれた書体の読みにくさ（短時間に多くを書こうとすると書字が乱れてきます）、カルテの保存場所が手狭になっていることから、電子カルテへの移行を迫られ、この9月からの導入を決定しました。

^{ひるがえ}翻って、読者の皆様、医療介護利用者様の視点で見る情報電子化の現状はどうでしょうか。一部の医療機関では電子化が進んでいるかもしれませんが、多くの場合、患者さんにわたす処方箋、検査結果は紙に印刷したものですし、健康診断結果、診断書等の書類も同様です。診療所から病院へ紹介する際、主治医が書く診療情報提供書も紙に印刷し封筒に入れ手渡されます。医療機関での情報は電子化されているとは言え、実際はアナログそのものです。医療情報は、最も他人には知られたくない個人情報のひとつであり、情報電子化の安全性がまだ十分に認められていない現状を反映しているのではないかと思います。

政府は、これらの情報を将来的にはすべて電子化し、マイナンバーカードを使って、指定された端末で、いつでも、どの医療機関でも閲覧できることを目指しているようです。どの程度までの情報を電子化し、一つの媒体に集約するのか、その安全性は確保できるのかなど、沢山の課題があります。医療情報をどのくらい電子化して、ご自身で管理できるのか、村民（国民）の視点で、もっと議論を重ねていく必要性を感じています。私たち法人サービスを利用される皆様には、医療情報の電子化についてのいろいろなご意見をお聞かせいただければと思います。

新グループホームわかまつの紹介

認知症対応型共同生活介護

グループホームわかまつ
管理者
宮城 和也 (准看護師)

グループホームわかまつの開設は17年前の2004年6月1日です。赤瓦屋根で昔の沖縄建築様式風に作られており、ゆったりとした落ち着いた雰囲気のある建物で、正面には世界文化遺産の中城城跡がそびえ、400年前の城址時代を垣間見ることができます。

しかし、開設から17年が過ぎて、建物も劣化が進み、新規移転先も検討されていた時期に、法人内の喜舎場にあるケアホーム（築7年）を休止して、グループホームわかまつの移転先として計画を進めることになり、移転時期は2021年4月1日に決まり、調整が始まりました。

入居者定員もこれまでの1ユニット9名から2ユニット18名で新規スタートすることになり、新グループホームに移転するにあたっては、準備期間は6か月と短い期間でしたが、法人職員の応援を仰ぎながら手際よく無事に荷物や書類の運び出しを完了することができました。応援してくださった方々に感謝したいと思います。

さて、グループホームに入居できる高齢者様の入居条件などを少しご説明します。

入居条件

- ① 北中城村内に住所があること。
- ② 認知症の診断があること。
- ③ 要介護1～5の介護度。
- ④ 共同生活ができる。

その他、病院受診や入院時など御家族のサポートができるなどです。

コロナが蔓延し、収束のめども立たない状況では、面会や外泊、外出も制限がかかり「やーぐまい」が当たり前の世の中になりましたが、スタッフとしては入居者を第一に考え、ストレスがかからない日々の生活を充実していただけるよう取り組んでまいりたいと思います。

グループホームの基本方針＝「やさしさに包まれ笑顔で生き生きと安心できるグループホーム」となっています。安心して住める場所として入居者様中心の個別的なケアに取り組み、笑顔が絶えないホームづくりを目指します。

入居相談やショートステイ、デイサービス（共用デイ）の要望も受け付けています。
気軽にお電話ください。

〒901-2311 沖縄県北中城村字喜舎場360番地1 ☎098-935-1021



北中城若松病院 亜急性期リハビリ課 の取り組み

亜急性期リハビリ課 主任
中川 賢司(理学療法士)

亜急性期リハビリ課

亜急性期リハビリ課は理学療法士4名、作業療法士1名の計5名が勤務しています。当院の第1病棟(一般病棟)の業務に従事しており今まで様々な疾患の患者様にリハビリを行ってきました。

第1病棟は内科の一般病棟として、脱水・発熱・嘔吐などの内科的病状の原因検索と治療、肺炎や尿路感染症などの治療が中心の病棟ですが、同時にリハビリを行って、体力や日常生活動作(起きる・座る・歩く・食べる・トイレに行く等)の低下を防ぎ、向上を図る事で、早期に元の生活に戻る事ができるように取り組んでいます。

終末期の患者様に対してのリハビリ

入院される患者様の中にはがんなど終末期の患者様もおられます。終末期の患者様に対しては、終末期リハビリとして患者様本人とご家族にご希望を伺い、医師や病棟スタッフと協力しながら外出支援や自宅退院(ご自宅で看取りを希望された場合)に向けて体調管理や環境調整、ご家族への介助指導などを行っています。骨折や脳卒中などでリハビリ目的で入院された患者様に対しては日常生活動作能力の改善を図り、ご自宅を訪問し必要に応じて改修を行う事で生活の場を整え、安全に退院して生活を送ってもらえるよう取り組んでいます。

お口のリハビリ

入院患者の中には全身状態増悪により食事の摂取が困難となったり、嚥下(飲み込み)能力が低下して誤嚥性肺炎を起こす方がおられます。安全に食事摂取ができるようお口のリハビリ課の言語聴覚士が介入し嚥下機能を確認した上で、食事形態の調整や食事姿勢、食事の摂取(介助)方法を検討し摂食訓練を行っています。

まだまだコロナの感染拡大の収束まで油断ができない状況ですが、ワクチン接種の取り組みを当院でも積極的に行っており、職員や入院患者様だけでなく、職員の家族、近隣住民の皆様にも行っています。これから感染の収束に向けて法人として取り組みを継続して行っていきます。

今後、面会制限なく通常対応に戻った時に、患者様とご家族に寄り添ったリハビリがしっかり提供できるよう亜急性期リハビリ課の体制を整え、在宅復帰や外出支援などに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

つながる思いと つなげる言葉

チャプレン室 瑞慶山 真

先日、療養者様と一緒に過ごしていた時の事でした。私に近づいてきた職員が、以前にその療養者様を対応した時の事を教えて下さいました。

それは外出支援で療養者様の一時帰宅に同行した時の内容で、その様子をまるで昨日の出来事のように、目を輝かせ教えて下さるのです。その職員はきっと療養者様とご家族の姿に強く心を動かされたのでしょうか。あの感動体験を今も胸の内で温め、少し年を重ねられた療養者様の前に、その時と変わらない思いで立っているのだらうと思い、私の胸も熱くさせられました。

小さな命の輝きも見落とすまいと寄り添う

姿に、私がお家族なら、どんなに心強く安心するだろうと思いました。それと同時に、同じ職員として、アガペ会の理念に相応しい、手本となる姿を教えてもらい、一緒に働ける事に誇りを感じました。

言葉にすれば、とても短い時間での出来事でした。私の知らなかったかつての感動は、私の心の中で新たな感動となり、目の前にいる療養者様に私の心を近づけてくれた思いがしました。

何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。(聖書)



チャプレン室
「こころのサプリメント」

Medical
Healthy
Recipe

秋の味覚「さつまいも」



若松苑 栄養課主任
内嶺 みゆき (管理栄養士)

秋は「食欲の秋」といわれるほど、美味しい食べ物が実り収穫される季節です。サンマ、鮭、鯉、梨、柿、ぶどう、栗、南瓜、じゃがいも、さつまいも、きのこ類など、どれもビタミン、ミネラル、食物繊維が豊富で、夏の暑さで疲れた体を回復してくれます。

その中でも「さつまいも」は人気ランキング上位を占め、焼きいも、天ぷら、おいもご飯、スイートポテトといろいろな料理が楽しめて女性たちを虜にします。また、悩める便秘にも、便通を促し腸の働きを活発にするセルロースなどの食物繊維が豊富で改善の効果が期待できます。今回はお鍋1つで出来る簡単、時短のさつまいもカレーの作り方を紹介します。



さつまいもカレー

<材料：4人分>

- さつまいも (乱切り)・・・中位 1 本
- 豚ミンチ ……………300 g 位
- 玉ねぎ (ミジン切り)・・・半分
- しめじ ……………1 パック
- 枝豆 ……………お好み
- 油 ……………大さじ 1
- カレールー ……4 片

【作り方】

- ① 鍋に油をひき、豚ミンチ、玉ねぎ、しめじ、さつまいもを順に入れ炒めます。
- ② ひたひたの水を入れ、さつまいもに火が通ったら、枝豆を加え、カレールーで仕上げます。



あなたにとっての

北中城若松病院 医師 新城 かずさ

「膝下のお魚」は、何ですか？

コロナ禍。離島に行かれません。ホームフィールドの西表島に潜りに行かれません。近場にタンクを背負ってのダイビングに出かけるのも、いくら留意しても人と接する機会も多く、感染対策上不安要素が残ります。こうなったら、誰もいない海に家族だけで出かけるしかありません。幸い、地元の人すらいない静かで美しい安全なビーチが沖縄には沢山あります。もちろん水難対策、感染対策含めて安全対策は万全に。ライフジャケット、ウエットスーツは常に着用必須。マスク・フィン・スノーケルの3点セット使用は十分訓練を怠りなく。必ず2名でお互いから目を離さないバディシステムも確認。海の緊急連絡は118番。

30年以上スキューバダイビングにはまり続け、水深3m～50m位までの海中世界にはかなり浸ってきましたが…ここに来てタンク要らずの水深1m以浅、特に「身体半分海面上。お尻出てますよ～」の浅さの海中世界に、今、ドブプリです。(浅いですがドブプリ。笑) この水深特有の魚がいっぱいです！すごい！しかも好きなだけ見ていられます。スキューバではタンクのエア残圧、体内に溶け込む血中窒素量等から潜れる時間の制限がありますが、スノーケルからその辺の空気を吸い放題(当たり前)。ですから、日がな一日海に浸かってきれ

いだったりちょっとファニーだったりの魚達をいくらでも眺めていられるのは、望外の幸せ。人影でサッと岩の隙間に逃げ込んでしまうようなシャイな魚も、30分もこちらがじっと動かずにいれば次第に気を許して目の前をちょろちょろ動き出します。うーん、可愛い。にやにや眺めていると、「ママー！何ずっと見てんのー！」とドッカーンと子どもが飛び込んで来て、一瞬で全てがパーになったりもしますが、まあ、また一からやり直せばよし。

魚は、その種類によって生息する水深が決まっており、スキューバダイバーは殆ど滞在しない極めて浅い海にしか生息しない魚も実は沢山いる訳です。コロナ禍でスキューバはし難くなりましたが、そのお陰で足元(膝下？笑)の今まで目を向けていなかった幸せに気づくことが出来ました。私の「お魚写真ファイル」の魚種、一気に増加中です。

コロナ禍であっても、飛行機に乗って出かけられなくても、身近な所(膝下)に幸せ(未だ撮ってないお魚)は潜んでいます。それに気づくかどうか。午前中ワクチン接種派遣でも、午後から海に行けば良いのです。さあ、今度の土曜日の潮時表を確認だ！

コロナ禍だからこそその幸せもきっとあるはず。全ての方にその幸せが見つかりますように。

足踏み式アルコール噴霧器を 北中城村社協に寄贈しました！

若松苑 リハビリ課
宮里 朝康 (理学療法士)



地域の新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、集会やサークル活動の際に公民館等で活用して頂ければと考えています。



足踏み式で手を触れずにアルコール消毒することができるので安心ですよ～。材料は、身近な物を使って作成しておりますので、誰でも真似て作ることができると思います。興味があり、作成上分からないことがありましたら、お問い合わせください。

**新型コロナウイルス感染対策の為、面会制限を行っております。
詳細はホームページでご確認下さい。**

地域医療包括ケアセンター 理念

医療と福祉で 地域にくらす人達の 充実した人生のために貢献する

地域医療包括ケアセンター 事業所

- | | | |
|----------------------|-------------------------|----------------------|
| ①ファミリークリニックきたなかぐすく | ⑦グループホーム わかまつ | ⑬宜野湾市地域包括支援センター ふてんま |
| ②訪問リハビリテーション きたなかぐすく | ⑧看護小規模多機能ホーム 若松 きたなかぐすく | ⑭新オレンジサポート室 |
| ③通所リハビリテーション きたなかぐすく | ⑨アガペファミリーエ | ⑮宜野湾市赤道老人福祉センター |
| ④ケアプランステーション ゆい | ⑩グループホーム 若松 ぎのわん | ⑯宜野湾市伊利原老人福祉センター |
| ⑤訪問看護ステーション 若松 | ⑪デイサービス 若松 ぎのわん | |
| ⑥ヘルパーステーション 若松 | ⑫小規模多機能ホーム 若松ぎのわん | |

それぞれの施設が個性を持って、在宅や地域の方々を支えています。



アガペ会理念

アガペ(神の愛)に生かされ、アガペ(神の愛)に生きる

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい(聖書 ヨハネ福音書13章34節)

《理念の意味》 アガペとは「神様の愛」というギリシャ語です。私たち職員は、神様と周囲の多くの方々に愛されて生きてきた事を感じ、神様が愛されている目の前の療養者・利用者とそのご家族の皆さんの幸せ、職員とその家族の幸せ、地域社会の方々の幸せを目指して医療とケアを提供していきます。

北中城若松病院

〒901-2395 沖縄県北中城村字大城 311
☎/098-935-2277 FAX/098-935-2272

- ・一般病棟 ・回復期リハビリ病棟
- ・認知症治療病棟 ・特殊疾患病棟
- ・認知症デイケア あしやぎ
- ・認知症疾患医療センター ☎/098-975-6122

介護老人保健施設 若松苑

〒901-2314 沖縄県北中城村字大城 327
☎/098-935-5858 FAX/098-935-5807

- ・入所療養介護
- ・短期入所療養介護
- ・若松苑デイサービス

地域医療包括ケアセンター

複合型高齢者施設 ふれあいの里 若松

〒901-2311 沖縄県北中城村字喜舎場 360-1

3F サービス付高齢者住宅 アガペファミリー ☎/098-935-4165

2F グループホームわかまつ ☎/098-935-1021

1F ファミリークリニックきたなかぐすく
☎/098-935-5517 FAX/098-982-0708

通所リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-982-0717

訪問看護ステーション若松 ☎/098-935-5818

訪問リハビリテーションきたなかぐすく ☎/098-923-3154

B1F ヘルパーステーション若松 ☎/098-935-5202

ケアプランステーション ゆい
☎/098-935-3066・098-935-5968

地域医療包括ケアセンター事務所 ☎/098-935-3093
クリニック以外の事業所の FAX は 098-935-5855 (共通)

看護小規模多機能ホーム若松 きたなかぐすく

〒901-2316 沖縄県北中城村字安谷屋 1346 番地 1 (1F)
☎/098-982-0181 FAX/098-982-0183

グループホーム若松 ぎのわん
デイサービス若松 ぎのわん

〒901-2201 沖縄県宜野湾市新成 1-20-6
☎/098-892-5104 (グループホーム) FAX/098-892-5111
☎/098-892-5105 (デイサービス) (両施設共有)

小規模多機能ホーム若松ぎのわん

〒901-2206 沖縄県宜野湾市愛知 2-3-2
☎/098-892-1673 FAX/098-943-1085

宜野湾市地域包括支援センター ふてんま
新オレンジサポート室

〒901-2202 沖縄県宜野湾市普天間 1-9-3
☎/098-943-4165 FAX/098-943-4067 (ふてんま)
☎/098-943-4085 FAX/098-943-4702 (新オレンジサポート室)

宜野湾市赤道老人福祉センター

〒901-2205 沖縄県宜野湾市赤道 1-5-17 ☎/098-893-6400

宜野湾市伊利原老人福祉センター

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐 4-3-17 ☎/098-890-7131

<https://www.agape-wakamatsu.or.jp>

※今号で使用している写真はご本人の同意を得て掲載しております

